

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5      ・通信教育部カレンダー→p. 24～29
- ・演習・実習科目関連締切等  
社会福祉士 演習・実習科目関連締切等→p. 35～37  
精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等→p. 38～40

## 2023年1月以降の変更・留意点

### ●スクーリング日程

『試験・スクーリング情報ブック2022』より下記のとおり変更いたします。

- ・「発達障害者の地域支援」の開講方法  
(変更前) 2/18・19仙台会場→(変更後) オンデマンド・スクーリング開講期21 ※会場スクーリングはなし。

## 【再掲】対面による学習相談のご予約のお願い

対面による学習相談は、ご相談内容により対応できる職員の調整の必要などから事前のご予約をお願いしております。具体的な申込方法につきましては次ページの「新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ」の「◆対面での学習相談および自習室の仕様について」をご確認ください。

## 【再掲】昨今の日本郵便の郵便事情について

2021年10月より、日本郵便（郵便局）の普通扱いの郵送物サービスが土曜日配達休止・お届け日数の繰り下げとなっております。この影響により、普通扱いの郵便物の到着の遅延（3～7日）が確認されています。各種提出物につきまして、ご提出の際はご注意ください。締切日まで余裕をもってのご提出にご協力ください。

## 新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ

1/11現在、3月中旬以降の会場スクーリングの開講予定は本冊子4部をご参照ください。ただし、今後変更の可能性がございますので、最新情報をホームページ(<https://www.tfu.ac.jp/tushin/>)にてご確認ください。

### ◆対面での学習相談および自習室の使用について

現在、学習相談のみ申込を受け付けております。自習室再開の際は下記にしたがってお申し込みください。

- 1) 平日（水曜日のぞく）のみ利用可能となっております。日付は第2希望までご記入ください。
- 2) 「利用申込書」を提出し、予約が必要です。
- 3) 本学通信教育部HPからダウンロードした「利用申込書」を利用希望日の1週間前までにメール添付で提出してください（提出先uc@tfu.ac.jp）。
- 4) 郵送で提出する場合は、巻末様式を使用し、利用希望日の1週間前までにお申し込みください（返送先住所を明記し定形封筒に84円切手を貼付した返信用封筒を同封）。
- 5) 当日は学生証の提示が必須となります。

- 6) 学習相談は平日の下記①～⑤となり1日一人1回の利用となります。  
午前 (①10:00～10:30、②11:00～11:30)  
午後 (③14:00～14:30、④15:00～15:30、⑤16:00～16:30)
- 7) 学習相談は講義に準ずるため、録音・録画はご遠慮ください。
- 8) 自習室(現在休止中)の利用可能時間は、平日(水曜日のぞく)の下記①②となり1日一人1回の利用となります(入室制限:1回4名)。  
なお、スクーリング開講日につきましては感染防止の観点から閉鎖させていただきます、使用できませんのでご注意ください。  
①10:00～12:00(120分) ②14:00～16:00(120分)

### 【注意事項】

- 1) 学習相談または自習室(現在休止中)の使用を目的とした入構に限ります。
- 2) 1回の学習相談は最長30分以内、1回の自習室使用(現在休止中)は最長120分以内となります。
- 3) 入館は開始時間5分前からになります。開始時間に遅れないようにお越しください。
- 4) 各終了時間には退室していただきます。
- 5) 入退館時は通信教育部職員が受付し、誘導いたします。
- 6) 入構時には、ご持参のマスク(不織布)着用および出入口での検温と手指消毒、チェックリストの記入が必要です。
- 7) 発熱のある方(体温37.5度以上)、体調不良の方は、入構することができません。
- 8) 疾患をお持ちの方やご高齢の方など感染により重症化しやすい方は、メールや電話などでご相談いただき、自習室のご使用は自粛をお願いいたします。

## ◆事務室各対応時間

〈電話〉 9 : 00～17 : 00(水曜日を除く)

〈メール〉 9 : 00～17 : 00

## ◆ご協力をお願い

- ・レポート、各種証明書の申込等は、郵送での提出にご協力ください。
- ・制限下での入構が可能となりましたが、引き続き、電話・メール・郵送  
での質問・ご相談にご協力ください。

注) 図書館 (国見キャンパス) 等については、本学図書館ホームページ  
(<https://www.tfu.ac.jp/libr/>) でご確認ください。

# 社会人の学びの秘訣

教員 MESSAGE

准教授 中村 恵子

世の中にはたくさんの娯楽が溢れているというのに、わざわざ大学入学を選択して苦難の道を歩んでくださっている皆さん、本当にありがとうございます。

大学には慣れましたか？ 心理学は、人間の心理を読み解こうというひねくれた学問なので、はっきりいって素直でない集団が大学の先生をやっています。各授業のスクーリングで、さまざまな教員の個性に戸惑っているかもしれませんが、世の中にはいろんな人がいるものだと言っただけで、なんとか単位をもらってくださいね。

さて、心理学科に入って最大の難関はレポートではないでしょうか？ レポートの課題や成績難易度は、教員の個人差も大きいので、まずは個性をぜひ存分にお楽しみください。世の中で奇人変人の代名詞のように扱われる（泣）大学の先生を、こんなにたくさん並べて吟味できる機会など滅多にあるものではありません。いろいろ観察してみてくださいね。

レポートの秘訣は、テーマの意図をきちんと理解することです。テーマを声に出して何度も読んでみてください。何度も読んでうちに、何を求められているのか頭に浮かぶはずなのですが、いつまでもひらめいてくれない場合は、テーマのキーワードをネットで検索して強制的にひらめかせましょう。また、本や資料が指定されている場合は、まずは指定されたものを読んで、読みながらピピッときたところをパソコンに打ち込みましょう。ネット検索でも同様です。そして、このパソコン打ち込みが最大のコツ&時短の秘訣です。ワードでもエクセルでも、使いやすいソフトにピピッときたところをひたすら並べていくのです。資料を読みながらダイジェスト版を作り、その後は本や資料には戻らず、ダイジェスト版を並べ

替えたり、作成したもののコピーや要約をうまく構成すればレポートになるというわけです。

この手間を惜しまずにダイジェスト版を蓄積させると、個人仕様の資料集が作成され、他のレポートにも活用可能です。本や資料は、引用箇所以外の文字が多いので、一度読んでも引用しようとするとなかなかピンスポットが見つからず苦労しますが、ダイジェスト版を作りながら読むと、そういうところは打ち込まれていて、さらに自分で作ったデータからコピーができるので、格段に効率が上がります。

作文や随筆は、評価の対象は感性です。

ところが、レポートや論文は客観性と論理性が評価の対象なので、どうしてそう考えたのかに根拠が必要です。その根拠は本や資料で、作文のように私見や直感や感情を折り込むと、レポートとしての価値を落としてしまいます。レポートに私見を折り込む時は、根拠を述べた後に「したがって、筆者はこのように考えた」と記してください。主観と客観を整理して書くことが大切なのです。

客観的なレポートを書くためには、与えられたテーマに対して3つくらいの視点を捻り出し、第1に……と考えることができる。第2に……とも考えることができる。さらに第3には……とも考えることが可能である。「したがって、筆者はこのように考えた」とすれば、立派なレポートに見えるような気がしませんか？

一方、2年も論理性・客観性を意識してレポートを書いていると、口喧嘩にスキがなくなって敬遠されるので、実生活に活用してしまうのは要注意です。レポートを離れたらめっちゃくちゃ騒いで、わめいて暴飲暴食して、愚痴を言い合って理屈を追放してバランスを取りましょう。

最後に、せっかく通信教育の大学を選択されたのですから、できるだけスクーリングに参加し、先生の観察もお勧めですが、わざわざ学びを求めて大学に入学した学友と仲良くなりましょう。学友との交流こそが、さま

ざまな意味で学びの宝庫となるはずです。卒業して何年経っても仙台に集合して同窓会を開いているグループもたくさん存在しているようです。財産とは人のことなので、ぜひ、人生の財産に巡り合ってくださいね。そして、私とも巡り合ってくださいと嬉しいです。お目にかかるのを楽しみにしています。